



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

お口年齢(口腔機能年齢)を計ってみませんか？

高齢者歯科 診療科長 佐藤 裕二

超高齢社会のトップランナーであるわが国ではメタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームと同じように、歯科では「オーラルフレイル(口腔の虚弱)」が問題視されています。これは、「滑舌低下」、「食べこぼし」、「わずかなむせ」、「かめない食品が増える」、「口が乾く」など、加齢に伴いお口の機能が低下した状態です。放置しておくと、全身のフレイル(虚弱)に陥りやすく、要介護へと突き進んでしまいます。

そこで、この状態をきちんと検査して、うまく治療や管理をすることが重要です。オーラルフレイルの状態をきちんと把握するために、この2年前からオーラルフレイルの3段階目である「口腔機能低下症」の検査が健康保険に導入されました。65歳以上の方やご病気のために運動障害がある方などで、お口の機能が少し下がってきた方が対象です。検査には以下の7つがあります(全てを行うわけではありません)。

1. 口腔衛生状態不良: 舌の表面の汚れ具合
2. 口腔乾燥: 口の中の乾き具合
3. 咬合力: 歯の数や、咬む力
4. 舌口唇運動: 滑舌
5. 舌圧: 舌で食物を押しつぶす力
6. 咀嚼能力: 咀嚼(そしゃく)する能力
7. 飲み込む能力: 誤嚥の可能性

これらの検査結果を総合して、「口腔機能低下症」の診断を行います。65歳以上なら、検査・指導費用は自己負担がある方でも1,000円以内です。

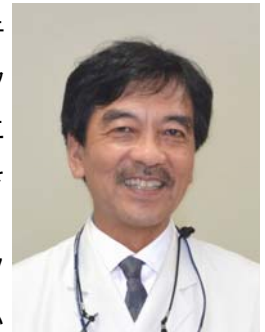
口腔機能低下症と診断された場合は、状況に応じて、歯科治療(う蝕、歯周病、入れ歯など)、口腔清掃指導、入れ歯の手入れの指導、お口の

トレーニングの指導などを行い、半年に一回ぐらいチェックを行います。当科ではすでに300名以上の検査を行ってきています。

ただ、この結果を見ても、「7つの検査でいくつが引っかった」ということしか理解しにくいので、当科では、検査結果から「お口年齢(口腔機能年齢)」を計算できるシステムを開発し、応用しています。

例えば、このように説明します。「93歳のあなたは、お口の年齢は89歳ですから、すばらしいです。ただし、滑舌の「力」は98歳相当ですから、ちょっと足を引っ張っていますね。ぜひお口を若返らせましょう。」このようなポイントを絞ったわかりやすい指導により、患者さんは自分の状態・弱点を具体的に理解でき、モチベーションもあがり、次の来院を心待ちにされています。

当院の患者さんでお口年齢をお知りになりたい方は、主治医の先生にご相談ください。また、周囲の先生方で、患者さんにこのような検査を希望される場合は、是非ご紹介ください。詳しい検査結果をお知らせします。



口腔機能年齢	実年齢 93 歳			
	基準値	測定値	年齢平均値	機能年齢
口腔清掃	9	2	6	
口腔乾燥	27	30.7	27.8	
咬合力	500 ✓	400	495	94
歯数	20 ✓	18	10.9	
滑舌: パ	6.0 ✓	5.8	5.5	90
滑舌: タ	6.0 ✓	5.6	5.5	92
滑舌: カ	6.0 ✓	4.4 ✓	5.0	98
舌圧	30.0 ✓	25.2	24.5	92
咀嚼	100	169	86	78
嚥下	3	1	2	

高齢者歯科では主にご高齢の方(65歳以上)を担当しております。年齢を重ねると、お口の問題は、むし歯や入れ歯などのお口の“形態”の問題だけではなく、噛む力、動き、筋力、唾液、咀嚼・嚥下(噛む・飲み込む)など、お口の“機能”の問題が生じやすくなります。これを放置すると、食事や会話などの日常生活に支障が生じることがあり、口腔機能低下症と言います。口腔機能低下症は口から食べる機能の障害(摂食嚥下障害)につながり、食べる楽しみが制限されたり、誤嚥性肺炎になりやすくなります。

こうした一連の総合的なお口の機能低下をオーラルフレイルと言います。オーラルフレイルは、全身のフレイル(虚弱)や要介護の原因とされ、後期高齢者健診にも取り入れられるなど、とても注目を集めています。当科では、こうしたご高齢の方のさまざまなニーズに応えるために、老年歯科医学会、補綴歯科学会、口腔インプラント学会、摂食嚥下リハビリテーション学会、義歯ケア学会の専門医・認定医を中心としたチーム診療を、外来と訪問で行っております。また、必要に応じて、医科の担当医と連絡をとり、院内の専門科と連携して最善の診療を行えるよう取り組んでいます。

高齢者歯科は食と口腔を通じて、以下のとおり、その人らしさを引き出す統合的診療を行います。

「健康長寿はお口から」: オーラルフレイルをお口の機能検査によって早期発見し、入れ歯などの統合的治療によって口腔機能低下症を管理し、患者さんの健康長寿にお口から貢献します。特に、ご高齢の方のお口の問題には、入れ歯やかぶせ物(補綴治療といいます)が関係することも多く、私たちが持つ豊富なノウハウと経験を活かしてQOL(Quality of Life:生活の質、生命の質、人生の質)の向上をお手伝いします。入れ歯でお困りの方はぜひご相談下さい。

「食べる楽しみいつまでも」: 脳卒中、パーキンソ

ン病、認知症等、ご高齢の方に多い病気などによって、オーラルフレイルが進んでしまった方に対しては、お口の機能、咀嚼・嚥下機能(噛む・飲み込む)の評価に基づく、食事の形態や食べ方の指導を行います。その上で、入れ歯などの統合的な治療によって本来の口腔機能を最大限引き出して、ご高齢の方の食べる楽しみを支援します。

2020年からは日本老年歯科医学会の摂食機能療法専門歯科医師による内視鏡下嚥下機能検査を導入し、地域の歯科医院と連携しながら、施設やご自宅への訪問診療での対応も可能となりました。お困りの方はぜひご相談ください。



口腔機能低下症の検査



ポータブル嚥下内視鏡による咀嚼・嚥下機能検査



高齢者歯科スタッフ

新入職員ご挨拶

補綴歯科 助教(歯科) 岩内 洋太郎

本年3月に本学大学院を修了し、補綴歯科に入職しました岩内洋太郎です。出身も昭和大学で学生時代は野球部に所属しておりました。

卒業後は補綴治療と臨床研究の両方を学ぶために昭和大学大学院歯学研究科(歯科補綴学)に入学しました。大学院時代は口腔内スキャナーを用いた臨床研究を行い、国内外での学会発表を数多く経験させていただきました。

診療は当院が誇る最新のデジタル機器を用いた補綴治療を中心に行っております。これまでに得た経験、知識を患者さんに還元できるよう精進いたします。宜しくお願いいたします。

新入職員ご挨拶

インプラント歯科 助教(歯科) 清原 秀一

3月に大学院を修了し、4月よりインプラント歯科の助教(歯科)として入職いたしました清原秀一です。

学生時にはアイスホッケー部に所属しており、体力のみが取り得です。

大学院在籍時には、初年度より歯科薬理学講座でお世話になり、破骨細胞分化を中心とした骨代謝に関連する生体活動の研究を通して、研究活動に対する考え方や実験の方法について学ばせていただきました。

大学院に所属した4年間は、ほぼ全ての期間を研究のみに費やすことを許していただき、臨床の場にはほとんどおりませんでした。この4月より、インプラントについての知識・技術を日々学んでおります。大学院で学んだ知識・経験を素に、臨床のみならず研究活動にも全力で、精進してまいります。よろしくお願いたします。

新入職員ご挨拶

高齢者歯科 助教(歯科) 平良 仁美

2020年4月1日より高齢者歯科の助教(歯科)として入職いたしました平良仁美です。

昨年、当科にて半年間臨床研修を行い「新しい入れ歯をつくりたい」という患者さんの希望に応えるため、先生方に多くのご指導をいただきながら完成まで診ることができました。入れ歯完成後の患者さんの嬉しそうな姿は、これから先も忘れることはありません。その経験が高齢者歯科に入局するきっかけの一つでした。

今後も患者さんに寄り添う治療を提供するためにコミュニケーションを大切に、真摯に向き合っております。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言は解除されたものの、まだまだ安心できない状況が続いております。感染症や熱中症など心配な時期です。お体に気をつけてお過ごしください。

当院での新型コロナウイルス感染症対策について

当院では、患者の皆様安心して受診をしていただくために、以下の新型コロナウイルス感染予防対策に努めております。

＜正面玄関でのサーモグラフィ、非接触型体温計による検温の実施＞

入口を正面玄関のみに制限し、全来院者の検温を実施しております。



＜アルコール消毒液の設置＞

正面玄関にアルコールディスペンサーを設置しております。入館の際は、手指消毒にご協力をお願いいたします。



＜1階の歯磨きコーナーの使用中止＞

飛沫による感染防止のため、1階歯磨きコーナーの使用を中止しております。お手洗いで歯磨きも感染防止の観点からご遠慮いただいておりますので、来院前に歯磨きを済ませていただくようご協力をお願いいたします。

＜お手洗いのエアータオルの使用中止＞

飛沫による感染防止のため、各フロアのお手洗いのエアータオルの使用を中止しております。

備え付けのペーパータオルの使用をお願いいたします。

＜飛沫感染のリスクがある処置を行う際の口腔外バキュームの使用＞

歯の切削などにより飛散する唾液を吸入し、空

気中への拡散を防止する装置である口腔外バキュームを導入し、エアロゾル感染のリスクを減らしております。

＜職員の毎日の検温と体調報告＞

全職員に出勤前の体温測定、体調の報告を徹底し、少しでも体調の悪い職員は就業させず自宅待機させております。

＜診療スタッフの防護体制の強化＞

患者さんと接する医療スタッフは感染予防のため个人防护具(マスク、ゴーグル、キャップ、ガウン等)を着用しております。

＜入院患者さんへの面会の原則禁止＞

病棟での感染予防のため、特別な場合を除き入院患者さんへの面会は禁止とさせていただきます。

●面会を許可する場合

- ・入退院時の付き添い(原則一名)
- ・当院からの連絡で来院(症状説明、手術の前後、検査等)
- ・特別な事情があり付き添いが必要な方

※面会が許可された場合でも、1階正面入口での検温(日曜・祝日除く)、手指消毒、マスクの着用の徹底をお願いいたします。また、37.5℃以上の発熱、咳、下痢等の症状がある方は面会をご遠慮ください。

面会時間・・・15:00～17:00(土・日・祝日含む)の1時間以内

今後の感染状況、社会情勢によっては対策に変更がなされる場合がございます。患者の皆様にはご面倒をおかけする場合がございますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

編集後記

今年は落ち着かない夏となりましたが、そんな時こそ心身のメンテナンスが大事です。お口は体の一部で、消化管と気道の入り口です。また、お口の健康はQOL(クオリティオブライフ:生命、生活、人生の質)に大きく関わっています。楽しく食べて、楽しく健やかに生活するために、お口の健康づくりから始めてみてはいかがでしょうか？



(J.F)